

# ジェーン・アダムスと ハルハウスを訪ねて

別府大学文学部人間関係学科

准教授 三城 大介

## 1 旅の目的

最初の失敗は、初めてのアメリカ旅行にもかかわらず、現地に住む友人を頼りにして、オヘア国際空港からレンタカーを借りて自分で最初の目的地である UIC (University of Illinois) に向かったことでした。というか、正確には UIC に向かっているつもりでした。しかし、彼は私を ISU (Illinois State University) に連れて行こうとしていました。「イリノイ大学に行きたい。」としか伝えていなかったのが、誤解の元でした。

シカゴ郊外からハイウェイに乗ってしばらく走っていた時にそのことに気がつきました。シカゴ市内にある ISU に行くために、郊外に出る必要はないはずですから。後で確認したら、ISU がある Bloomington までは車で約2時間、危うく初日から UIC での約束をすっぽかすところでした。

帰国後、アメリカでの生活経験がある同僚に話したところ、「州によっては似たような名前でも、飛行機で移動するほど、離れている場合がある。運がよかった。」と言われて、妙な汗をかきました。

UIC での目的は、私が大学生の頃から憧れ続けているジェーン・アダムス (Jane Addams)

に会うことです。と言っても、1935年にこの世を去っていますから、彼女の残したものに触れることが目的でした。

ジェーンは、1931年に全米女性初のノーベル平和賞を受賞しました。

ジェーンの名付け親は、オバマ大統領が尊敬するリンカーン大統領です。ジェーンの父親、ジョン・アダムスは当時の上院議員でリンカーンの盟友と言われていた人物です。南北戦争をリンカーンとともに戦った戦友であり、シカゴで銀行、鉄道、材木商、製粉業を営む大富豪でした。

彼女は、偉大なリンカーン大統領の盟友ジョン・アダムスの娘に生まれました。しかし、彼女は当時のアメリカ人女性の理想である、よき妻よき母にはなれなかったのです。ジェーンは生まれながらにして脊椎に持病を持ち、よき母になることができなかったからです。

また、裕福な家庭であっても、家族愛にはあまり恵まれていなかったようです。実母を幼い時になくし、兄弟も精神疾患を患うなど家庭環境は複雑だったようです。

ジェーンはロックフォード神学校を卒業した後、医学部や教育学部に入學するのですが、生まれながらに持っていた脊椎の持病の悪化や兄弟の死などにより、人生の目標を見失い、エレン・ゲーツ・スター等ロックフォード神学校代の友人達と欧州旅行に出掛けます。たまたま立ち寄ったロンドンのイーストエンドで、トインビーホールを中心とするセトルメント活動に触れ、人生の目標を得たと言われています。

トインビーホールとは、当時、ロンドン最大のスラム街だったイーストエンドに、オックスフォード大の卒業生や教員、学生達に移り住み、



“施しより愛を”という共通の理念をもとに社会改良運動 (Social Reform Movement) に取り組んでいた、その象徴的建物の名前です。彼らは、社会的特権や地位を自らの意思で放棄し、スラム街に住み、その中で保育・医療事業・文化教育事業・家事援助事業などに取り組みました。スラムに住む人々の文化的・道徳的・知的レベルを向上させることによりスラムを変えることができると信じて活動していました。その方法は、スラムで生活する全ての家庭がそれぞれに何らかの問題を抱えていると仮定し、個別の訪問をくり返して支援を行ってゆくというものでした。

ジェーンは、同行したエレン・ゲーツ・スターらとトインビーホールの活動をつぶさに吸収すると、直ちに帰郷したそうです。そして、アダムス家の資産を使い、当時シカゴ最大のスラムであったハルシュタット通り沿いにあったハル氏の邸宅を購入し、そこに全米で2番目のセツルメントハウスであるハルハウスを設立するのです。

それ以後、ハルハウスは、現在のソーシャルワークの源流として発展してゆくのです。

## 2 ハルハウスとハルシュタット通り

ハルハウスを設立したジェーンとエレンは、フローレンス・ケリーやグレースとエディスのアボット姉妹、ジュリア・ラスロップといった後のアメリカ社会で児童福祉や女性の社会権獲得運動で活躍する若き女性たちを、次々とレジデントとして招き、セツルメント活動に取り組みます。当時の人々は彼女達のことを“ハルシュタット通りの貴婦人たち”と呼んだそうです。ハルハウスでのセツルメント活動が活発になってくるとハルハウスに事務員が必要になってきました。そこで彼女たちはハルハウスの通りに面した窓に「事務員募集」の掲示を出したそうです。その事務員に応募してきたのが、メアリー・リッチモンドです。彼女は事務員をしながら此処での活動を間近で見て学び「What is the Social Work」を執筆し、それが後の全米各地の大学院におけるソーシャルワーク教育のテキストになります。ソーシャルワークの母はこうして生まれたのです。

ジェーンとエレンは、ハルハウスの活動のほか、国際女性連盟の設立や婦人参政権運動に関わるなど、二人三脚で精力的に活動してゆきます。



## 3 おたくな私

UIC 訪問の目的は、キャンパス内にジェーン達が活躍した当時のハルハウスが移築され、博物館としてジェーンをはじめハルシュタット通りの貴婦人たちの貴重な資料が保管されているからです。できればジェーンの日記やジェーンを中心に彼女たちの当時の様子がわかるものを実際に読んでみたいと切に願っていたからでした。

そう、なにをかくそう、ジェーンおたくなのです。

ジェーンとの出会いは大学1年生の春にさかのぼります。福祉を学んでいたのですが、勤勉とか学究肌という言葉と対極にいる学生でした。当時思いを寄せていた同級生に引っ張られて出席した講義が社会福祉発達史でした。その講義は、イギリスにおける社会福祉の発展過程、特に新救貧法以降からベバリッジ報告までを対象にした講義でした。その中で語られたジェーンの生涯が鮮烈な印象で飛び込んできたのです。

名付け親がリンカーン大統領、父はリンカーンの盟友でシカゴ有数の富豪でかつ上院議員という出自をもちながら、先天的な脊椎の病気のために、当時のアメリカの子女に求められた規範となる姿である良き妻・良き母になることもできないジェーンが、人生の歩き方を模索できずに、自分探しの旅に出たヨーロッパでセツルメント運動に出会い、自分の進むべき道を悟りその生涯を傾けて行く。講義で語られたジェーンの生涯に興味を

持ち、当時見ることができた彼女の資料を読み漁りながら、まだ見ぬ(永遠に会う事はない)ジェーンに一方的に憧れていったのでした。

今の流行り言葉で表すなら、私はおたくで、ジェーンはさしずめニートってことになりませんか？

#### 4 エレン・G・スターとの関係

今回のUIC訪問で、ジェーンやエレンの写真や日記、書簡を間近で見ることができました(残念ながら直接触れては駄目だそうで…)

ハルハウスは想像以上に小さな建物で、木造で2階建て、1階には大きめのリビングとキッチン、4つの作業室(面接室)と事務室、2階は4部屋あって、それぞれ面接や事務に使っていたそうです。ハルハウス記念館を案内してくれたUICのグッドウィン研究員に、「実際にハルシュタット通りの貴婦人たちはここで寝起きをしていたのか？」と聞いたところ、「もちろん」という答えが返ってきました。ドラマで見るアメリカの一般的な家庭の広さ??(私の中にあるアメリカの一般的な家庭の広さがどの程度をさすのか非常に怪しいのですが)のハルハウスに上流階級出身の彼女たちが共同生活をしながらスラムの生活者と対峙する生活を送り、この家でいったいなにを語り合ったのか、耳を澄ませても何も聞こえてきませんでした。

このハルハウスを中心的に切り盛りし、歴史の検舞台に立ったジェーンを支えてきたのはエレンだと言われています。現に他のレジデントは、例えばアボット姉妹はシカゴ大学の社会福祉大学院で教職につき、ジョン・ディーイやウィリアム・ジェームズと親交を深め、大学院におけるソーシャルワーク教育に貢献するなど、数年間のハルハウスでの活動の後に巣立ち、それぞれの活躍の場を探してゆきます。

エレンも、労働運動や芸術運動、女性解放運動などさまざまな活動に関わり、頭角をあらわしていきます。しかし、彼女は他のレジデントとは異なり、あくまでも生涯ハルハウスのエレンとして、ハルハウスを軸に活動を展開してゆくのです。住

まいも、ジェーンが他界するまでジェーンと共同生活を送ります。エレンのサポート無しにはジェーンの活躍はありえなかったようです。

#### 5 フローレンス・ケリーとの関係

ケリーは、アメリカにエンゲルスを最初に紹介した女性として知られています。

ペンシルバニア大の大学院を受験しますが、女性であることを理由に入学を拒否され、スイスのチューリヒ大の大学院で法学を学びます。彼女は、この時期にエンゲルスと親交を持ち、1887年にエンゲルス著『英国における労働者階級の状態』を英訳するのです。

帰国後にハルハウスのレジデントとして迎えられ8年間を過ごすのですが、ここでの彼女の役割は、科学的に調査手法をハルハウスに移入することでした。

ジェーンとハルハウスが学術的に評価されるきっかけとなったのは、アメリカ版ブースのロンドン調査と言われた社会福祉調査「Hull-house Maps and Papers」をジェーンが発表したからです。これは、現在の社会福祉調査やソーシャルワークのマッピング技法の原型と言われています。

偉大なるニート?で、医学部や教育学部を入学後直ぐに中退したジェーンに社会福祉調査法や社会学、統計学の優れた知識があったとは考えにくく、ケリーの助力によって初めて、ジェーンとハルハウスは世に出る機会をつかんだのでしょうか。

#### 6 現在のハルハウス

現在もハルハウスは、シカゴの町の中で活動を続けています。アダムス家から資金援助を受けて(後にアダムス財団から資金援助を受ける)ハルハウスを購入して以降、その活動資金は、ハルハウスの活動に共感したさまざまな財団や団体から寄付を集めて運営されています。記録によると、ハルハウス開設から10年以降は、毎年7万ドル以上の収入を得て運営していたようです。もちろん、ジェーンが受賞したノーベル平和賞の賞金も

ハルハウスの運営に使われたようです。

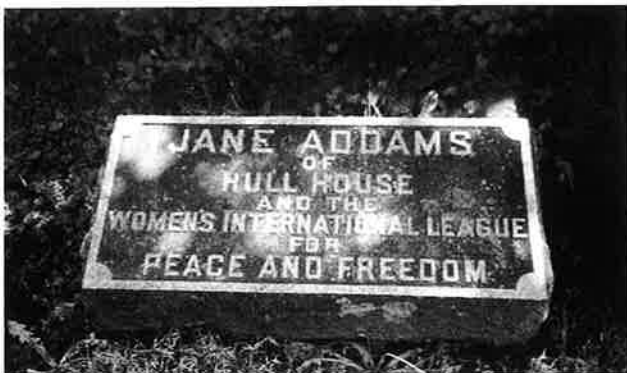
そして120年の時を経た現在のハルハウスは、移民のためのエンプロイメントサービスセンターや医療施設、子どものための教育や保育センター、社会的弱者のための支援センター、ボランティアの受け入れセンター、市民のためのオープンスペースなど、地域のセトルメントハウスとしてシカゴに今もしっかり根付いていました。ハルハウスは、その時々の中での社会状況の中で、常にマイノリティーな社会的弱者がエンパワーメントを回復するための支援を続けていました。

今回のハルハウス訪問では、ゲストハウスに5泊させていただいたのですが、最終日にハルハウス記念館のグッドウィン研究員とハルハウスのスタッフがディナーに招待してくれました。その席でスタッフの一人が、「あなたは大学の教員なんだよな」と念を押した後に「ハルハウスには世界中から多くのボランティア学生が集まり、そして、ハルハウスで学び、それぞれの母国に帰ってゆく。日本人の学生は少ない。今度は学生を連れて来なさい。」と言われたのです。

ジェーンのストーカーを自負する私は、もっとおたくな仲間を増やすことを約束しました。

## 7 J・アダムスの墓標

ジェーンの墓標は、スプリングフィールドに程近い町、彼女の生まれ故郷であるシーダビルにあり、彼女はその下でひっそりと眠っています。墓標には「JEAN ADDMAS OF HULL HOUSE AND THE WOMENS INTERNATIONAL LEAGUE FOR PEACE AND FREEDOM」と刻まれています。



同じシーダビルのジェーンの墓標近くには、アダムス家の霊廟が、他を圧倒する形で建っています。そこには、リンカーン大統領の盟友であった偉大な父ジョン・アダムスも、ジェーンの実母も夭折した姉妹も、精神疾患に苦しんだ兄弟たちも眠っています。

なぜ、ジェーンはアダムス家の霊廟に埋葬されなかったのでしょうか？下世話な噂話であった、ジェーンとエレンが同性愛者だったからでしょうか？それが事実なら、当時の社会規範から判断してノーベル平和賞を受賞することはなかったと思うので、別に何か理由があったのでしょうか？

この事は、なぞのままでいいのかもしれませんが。

## 8 旅の終わりに

今回の訪問は、おたく歴二十数年の私が温めてきたジェーン像と、彼女の軌跡を照らし合わせる旅でした。そして、そこで感じたことは、過去のハルハウスは、ニートというか、時代的に女性の社会進出が難しく、もしくは他の理由でニートにならざるを得なかった女性達が、自身の生き方を見つけるために作ったのもだったのかもしれませんが。

ジェーンやエレン、そして多くのレジデント達は、ハルハウスでスラムの孤児や低所得者、マイノリティーで社会から差別を受けていた人たちと向き合うことで、それぞれが人生の舵を取る場所を見つけたのだと感じました。そして此処で支援を受けた多くの人、そのことをきっかけにして新しい人生の舵を切ったのでしよう。

ハルハウスは、援助者と被援助者、地域を支援し改良することを模索した人と、それにより支援を受け社会的に回復した人、改良を受けた地域という二元的な分類は存在せず、それぞれのエンパワーメントを回復するための巨大なエネルギーが集合した地域の大きな器だったのかもしれませんが。

20数年憧れ続けてきた女性に会えたような高揚感とともに帰国の途に就きました。